



藤香会だより

第5号
平成20年7月1日発行
発行者
藤香会事務局
092-541-8268
発行責任者
中島 敏行

会長就任にあたって

藤香会 会長 山崎拓



このたびは思いもかけず、皆さま方のご推挙により会長の重責を担うこととなりました。

もとより私は藤香会の会員でありましたが、いまさらのように郷土福岡の縁を痛感せずにはいられません。私の先祖は藩政時代には黒田家の縁を食っており、明治になると祖父が玄洋社の社員となりました。お墓も黒田家の菩提所崇福寺にあるのです。

さて、当藤香会は明治二十四年に組織された報古会にその根本精神を置くもので、これまで一一八年のゆるぎない歩みを続けております。

四〇〇有余年前、筑前一国を預かり今日の福岡の繁栄と文化の礎を築かれた黒田如水・長政ご両公のご業績に思いを致し、あわせて郷土福岡の発展を願ってきたのが本会の伝統でありました。私も微力ながら藤香会の伝統と歴史を踏まえ、さらに新しい一歩を進めたいと念じております。

とは申せ、会運営の実務の多くは、中島副会長以下の役員諸氏の力と会員の皆さまのご理解なくしては、到底なし得ないことであります。会員の皆さまの一層のご協力をお願いする次第です。

平成二十年度総会開催

定期総会は五月二十四日(土)、改築新装の警固神社神徳殿で開かれました。出席者は五百人でした。

決算・予算、会則の改正、新役員および本年度の行事、事業が提案のとおり承認されました。主な決定事項は次のとおりです。

1 新役員

- | | |
|------|-----------|
| 名誉顧問 | 黒田 長久 |
| 名譽顧問 | 黒田 長高 |
| 会長 | 山崎 拓 |
| 副会長 | 中島 敏行 |
| 事務局長 | 鈴木 襄二(広報) |
| 事務局 | 諸岡 京子(会計) |
| 監事 | 尾崎 元治 |
| 監事 | 平田 善積(広報) |
| 監事 | 田中 鎮夫 |
| 理事 | 関 武吉 |
| | 森 悦次郎 |
| | 馬頭 徹夫 |
| | 芳子 宰 |



◆◆ 定期総会風景 ◆◆

第二代藩主・忠之公の三五五回忌ご法要

例年のとおり、ご法要は黒田忠之公の命日の二月十二日に行われました。東長寺には忠之公のほか、三代光之公、八代治高公も祀られていますので、実際はご三公のご法要を兼ねているのです。

忠之公が東長寺を自分のお寺として選ばれたことについて、「黒田家譜」によると、

ある時、忠之公が嗣子・光之公に、「自分は真言宗に帰依し、東長寺を菩提寺とする。先祖はみな禅宗であるので、この後もみな禅宗であろう。東長寺が後年衰微していくことは心残りである」と話されました。すると、光



忠之公ご法要 (東長寺客殿にて)

2 おもな行事

①ご法要

- | | | |
|---------------|---------|-------------|
| 藩祖 長政公 | 七月二十七日 | 木下 正 篠原カズエ |
| 二代 忠之公 | 二月十二日 | 高倉 清子 小河 昭三 |
| 始祖 如水公 | 三月二十日 | 小池 玲子 毛屋 嘉明 |
| 講話「長政公と二十四騎」 | 九月二十日 | |
| 福岡市博物館 | | |
| 史跡めぐり | 八月二日・三日 | |
| 姫路方面 | | |
| (黒田サミットにちなんで) | | |

④忘年会

十二月六日

3 築城四〇〇年記念事業

- ①「藤香会沿革略記」発行
- ②奉賛者名記念碑設置
- ③総会に続いて、恒例の歴史卓話「如水公の墓碑銘のこと」がありました。

面に卓話の要旨掲載

之公が、「ご心配なさることはありません。私が真言宗に帰依して東長寺の檀越(施主)となります」とおっしゃいました。それで、忠之公は「これが孝養追善の第一である」といって大変よろこばれた、ということでした。

この日の読経、焼香のあとのご住職の法話は、弘法大師の、東長寺開創一二〇〇年を記念して平成二十二年末を目標に、土佐ヒノキの総木造の五重塔を建立し仏舍利を安置したい、という計画についてでした。

如水公のご法要に姫路市・中津市からもご来詣

福岡藩の始祖・黒田如水公の四〇五回忌法要は、ご命日の三月二十日、黒田家第十六代・長高様のご来臨のもと、崇福寺で営まれました。

今年、例年の法要と違ったのは藤香会のほか、姫路市から「播磨黒田武士顕彰会」の三五名、中津市から「中津黒田武士顕彰会」の九名、それに一般市民の方々のご来詣があったことです。

斎場の本堂では木魚の音、読経の声、立ち昇る香煙の中、一〇〇名を超える参詣者が、如水公の播磨、中津、福岡での波乱の生涯を追想しました。

回向のあと、長高様から、黒田家墓所が福岡市の文化財の指定を受けていることとから、「崇福寺と福岡市、黒田家の関わりが多くの人に理解されてきていることを感謝している」旨のごあいさつがありました。

このあと、来詣者は本堂を出て黒田家墓所の如水公の墓前に移動しました。

墓前焼香に先立ち、播磨の顕彰会のお一人から「黒田官兵衛孝高如水公の苦闘の生涯とご遺徳を偲ぶ」献吟がありました。

春の空のもと、春の土を踏んで、約一時間半のご法要の時が移りました。

総会のあとの卓話の要旨

「如水墓碑銘の拓本採りから」

お話は福岡市教委文化財調査担当課の三木隆行課長さんで、今年のテーマは「黒田如水公碑文について」でした。

三木課長は昨年夏、炎天下の崇福寺黒田家墓所で一週間にわたり如水公碑の拓本を採られたそうで、その拓本も見せていただきました。卓話の内容は、およそ次のようになります。

墓碑は、上部が方柱体、下部は饅頭型の基壇のように見えますが、これは全部が一つの安山岩一石でできています。石材の産地は大分県の安心院から英彦山あたりと考えられます。

碑文は、上部方柱体の正面に「龍光院殿如水圓清大居士碑并序」、そして左右の両面と裏面いっぱい約三六〇〇字におよぶ漢文が書かれています。これは四〇〇字詰め原稿用紙で九枚分に相当します。その碑の文と書は僧景轅玄蘇の作です。玄蘇は宗像の生まれで、聖福寺に入り、のち対馬の島主・宗義調に請われて対馬の以酌庵に住し、文禄慶長の役ときは外交の大立者となったということです。

課長は漢文を読み下し文(日本語)にして説明されました。文章の内容は黒田家の氏来歴、如水公の生い立ちから、文武の習練・苦闘、戦功歴や遺業などが記述されています。死を前にして、跡を託す長政公への遺訓は心を打ちました。

「士を愛し民を撫し、孤弱を慈しみ貧賤を憐れむ」とが自分(如水公)に対する最良の追福である」

卓話の時間が短かったのが残念でした。



◆◆ 如水公墓前焼香(H20.3.20) ◆◆

藤香会関係 昨年度の主な行事とイベント

- H19.4.8 崇福寺で<花祭り音楽祭>開催。黒田長高様ご出席 昼夜で1000名超来聴
- 5.26 鳥飼八幡宮で定期総会 卓話「福岡城跡の整備計画」福岡市文化財整備課 長家 伸氏
- 8.4 福岡藩初代藩主・黒田長政公385年遠忌ご法要
- 9.2 第3回 勉強会 鳥飼八幡宮参集殿で 講演「福岡藩の石高と知行・年貢」 講師 福岡地方史研究会会長 石瀧豊美氏
- 9.23~24 <福岡城・黒田五十二万石の歴史と観光展> 市民の会主催 於よみうりプラザ
- 9.28 福岡市教委<下の橋大手門、復旧上棟式>挙行(藤香会代表出席)
- 9.20~11.4 <大応国師と崇福寺展>福岡市美術館
- 10.20 光雲神社西公園鎮座1000年祭
- 10.21 「小石原焼窯」黒田光之公開窯325年記念祭(藤香会「史跡めぐり」)
- 10.22~28 第4回博多人形作家協会新作展 福岡城築城400年・特別企画博多人形<黒田二十四騎>
- 11.20~22 <福岡城52万石の歴史と24騎> 主催「福岡市民の会」・ほか 於アクロス福岡
- 11.27~28 第4回 福岡文化連盟祭り<ふくおか再発見・福岡城> 於福岡市少年文化会館 シンポジウム「輝け城の町福岡」・演劇「藤の牢」
- 12.8 忘年会「福岡黒田ライオンズクラブ」から崇福寺黒田家墓所整備費にと金一封贈呈、披露 卓話「崇福寺と妙楽寺の歴史」崇福寺兼務 妙楽寺住職 渡辺桂堂師
- H20.2.12 福岡藩第2代藩主黒田忠之公・3代光之公・8代治高公ご法要
- 3.1 <福岡城に天守閣を!> 講演会 主催「市民の会・読売新聞社」於福岡市美術館
- 3.16 崇福寺の黒田家墓所掃除(ボランティア参加)
- 3.20 如水公ご法要 於崇福寺。播磨・中津両黒田武士顕彰会44名参席ご法要を終わって、藤香会と播磨および中津黒田武士顕彰会との交流会を開催

会員クリック④



関さんは平成元年から理事を務めておられます。報告会時代を知っている人も少なくなりました。

藤香会の思い出

藤香会理事 関 武吉

私の家は報告会会員でした。私が子どものころ、玄関入口の真上に、福岡藩主黒田家の定紋「黒田藤巴」の徽章が取り付けてありました。陶製でしたが直径一〇センチくらいの円形をしていました。子どもなりに、その徽章が取り付けてある意味がわかっていて、内心誇らしく思っていたものです。小学生のころは、毎年光雲神社の春秋の大祭には必ず父と母に連れられてお参りをしていました。私は

昭和十年に小学校に入塾しましたから太平洋戦争の少し前くらいのことでしょう。報告会の会則に、「総会は年二回、春四月二十日、秋十月四日光雲神社祭典の日」と、ありますが、私の記憶には神主さんの神事のあと、桜の花とつじの花に囲まれて折詰の弁当を開いたことしかありません。

私は昭和十八年には勤めはじめ、戦争も激しくなると、終戦前後の報告会のこととはほとんど憶えていませんが、戦後報告会も藤香会と改称されました。

私が正式に藤香会に入ったのは昭和四十八年のことです。勤務しているときは、例会出席もままならないときもありましたが、定年退職後は、例会の出席や行事の参加に努め、私の楽しみの一つにもさせてもらっています。

みごとに黒田家墓所掃除

ボランティアを募って

菩提所崇福寺に隣接する黒田家墓所の掃除は毎年二回、春は如水公のご法要のまえ、夏は長政公のご法要のまえに行っていました。これまで藤香会と黒田奨学会による、業者の手を借りながらの作業でした。

しかし、会員の高齢化などを考えると、このままでは将来、今と同じような人手を維持していくことは難しいかもしれません。また、墓所は福岡市の指定文化財にもなりました。

そこで、これまでの慣例にとらわれず、市民の皆さんにも広く呼びかけたのが今回、三月十六日(木)の「ボランティア掃除」です。

当日の掃除は会員が二十九人に、一七人のボランティアの応募があり、合わせて四六人の大作戦となりました。

参加者の方には三台の草刈り機も持参していただき、所期の目標どおり一二八〇坪の広い墓地の草もきれいに刈り上げることができました。

清掃終了のあと記念撮影があり、中島副会長から「如水公をはじめ、ここにお眠りのお殿様方も、さぞお喜びのことでしょう」とお礼のことばがありました。

次の清掃は七月二十六日(土)、朝九時からです。よろしく、お願いします。



◆◆ 崇福寺墓所清掃 ◆◆

編集後記

ある人から藤香会の紹介に「たより」を見せたといううれしかったですが、編集の責任を痛感しました。(平田)